

検査ニュース

No.107

ご挨拶

平素より、佐賀県医師会成人病予防センター業務には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
今回は、「新規実施項目」についてご案内申し上げます。

佐賀県医師会成人病予防センター
担当理事 志田 正典

1. 特異的IgE（シングルアレルゲン）【平成 22 年 10 月 1 日(金)ご依頼分より】

検査項目	採取容器	検体量	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考	
特異的IgE (シングル アレルゲン)	ω-5グリアジン	スピッツ 茶色栓 9ml用	血清 0.3	2~4	110 ※5	FEIA	0 0.35未満 SCORE UA/ml	
	カシューナッツ	スピッツ 茶色栓 9ml用	血清 0.3	2~4	110 ※5	FEIA	0 0.35未満 SCORE UA/ml	
	マラセチア(属)	スピッツ 茶色栓 9ml用	血清 0.3	2~4	110 ※5	FEIA	0 0.35未満 SCORE UA/ml	

※5：免疫学的検査判断料

● ω-5 グリアジン(小麦コンポーネント)

小麦は、「特定原材料」として食品への表示が義務付けられている代表的な食物アレルゲンです。また、食物依存性運動誘発アナフィラキシー(FDEIA)を誘発する頻度が最も高いアレルゲンとして知られています。ω-5 グリアジンは、小麦グルテンの構成タンパクの一分で、小麦依存性運動誘発アナフィラキシー(WDEIA)の主要抗原であることが明らかになり、本検査は、感度・特異度の高いWDEIAの診断法として期待されています。

● カシューナッツ(木の実)

ナッツ類は、強いアナフィラキシーショックを起こすアレルゲンとして知られており、日本でも、ナッツアレルギーの患者は増加しています。カシューナッツは中華料理や菓子などに使われるだけでなく、最近では隠し味として、目に見えない形で広範囲に使用されるなど、食環境が変わってきています。そのため、原因食物の特定や除去が困難な場合があります。

また、他のナッツアレルギーがない場合でも、カシューナッツアレルギーを起こす症例が報告されています。重篤な症状に至る可能性があり、今後注意を要するアレルゲンのひとつです。

● マラセチア(属)

マラセチアはヒトの皮膚に常在する真菌で、近年、アトピー性皮膚炎の増悪因子として注目されています。アトピー性皮膚炎患者の抗体陽性率が、真菌の中ではマラセチア(属)が最も高く、アレルゲン全体としても、室内塵、ダニ、スギに次ぐ高い陽性率であることが報告されています。

2. 抗てんかん薬「ラモトリギン」血中濃度【平成 22 年 10 月 1 日(金)ご依頼分より】

検査項目	採取容器	検体量	所要日数	実施料 判断料	検査方法	基準値及び単位	備考
ラモトリギン	ヘパリン 入り 採血管 Ⓞ	血漿 0.5	3~5	特	HPLC	(μg/mL)	ラムクタール

特：特定薬剤治療管理科